

“アプリケーション・メンテナンス”

金融機関はかなり早い時期から積極的にコンピュータの導入に取り組んできた結果、現在ではかなりのアプリケーション・ソフトウェアを資産として保有しています。これらのアプリケーションは日々の基幹業務で利用されていることから、新たな商品・サービスの追加や法制度などに対応するために度重なる修正や改造の作業が行われていると言っても過言ではないでしょう。今回は、「アプリケーション・メンテナンス」の取り組み状況についてご紹介したいと思います。

対策が求められているソフトウェアの保守・維持費用

欧米の金融業界でも、既存のアプリケーション・ソフトウェアをいかに効率的に保守、メンテナンスしていくかは重要な課題となっています。ある調査会社の推定によれば、米国の金融サービス機関におけるシステム保守・メンテナンス費用はおおよそ 80%前後にのぼっており、金額ベースでは 2003 年から 2007 年にかけて 18 億ドル増加するものの、IT 関連支出の総額に占めるメンテナンス費用の割合は次第に逡減していくのではないかと予測されています。

金融業界の収益改善によって銀行などがいわゆる「攻めの経営」にシフトしようとする姿勢が窺われます。その中で、新たな戦略的 IT 投資のための費用を捻出するためにも、アプリケーション・ソフトウェアに対する保守・維持に要する費用を削減する方策としてアウトソーシングの活用が改めて注目されています。

アウトソーシングの一環としてのアプリケーション保守

一般に、アウトソーシングを大きく分類すると、IT インフラ・アウトソーシング、アプリケーション・アウトソーシングおよびデスクトップ・アウトソーシングという 3 つになります。今日では、システムの開発や運用の業務がグローバルに水平分業される傾向が強まっていますが、アプリケーション・ソフトウェアの開発や保守についてどの程度活用されているのでしょうか。

まず、成熟度という観点からすると、IT インフラやデスクトップと比べると、アプリケーション・アウトソーシングは依然として未開拓な領域があるようです。また、一貫したトータルなサービス・メニューの提供という点でも、未だ見直しや改善の余地があるように思われます。それらは IT インフラなどと比べて、法制度の相違に対する知識や業界の慣習や慣行などに精通した委託先が見当たらないという現状も見られます。

鍵となる「経験」と「スキル」の補完

そうした「未成熟さ」を抱えているにせよ、アプリケーション・アウトソーシングは市場規模こそ未だ小さいながらも、その伸び率という点では比較的高めになっていることから、金融業界としても期待しているアウトソーシング分野ということができるでしょう。

そもそも金融機関としてアウトソーシングを利用する基本的な目的としては情報通信技術の専門性への追従が内部の人材育成では難しいということがありました。しかしながら、既に述べたように、アプリケーション資産の増大という課題に対して外部の専門的なサービスを利用することによって、内部的なコストを軽減することで解決を模索するという施策も支持されつつあるようです。

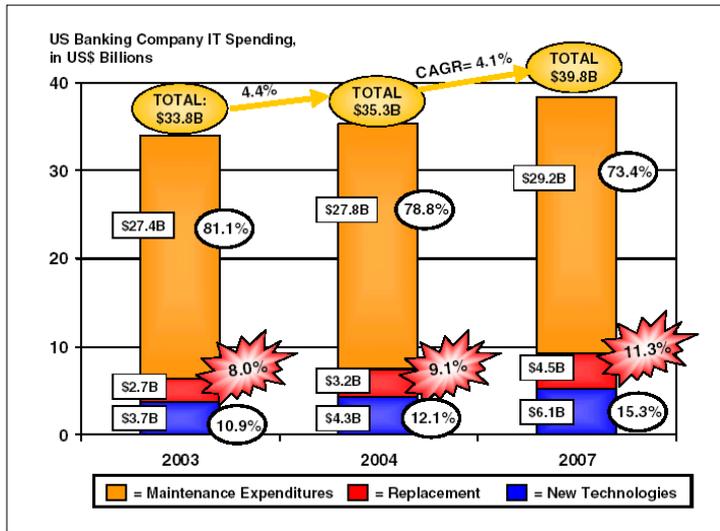
欧米の金融業界においても自行のアプリケーション資産の保守作業について外部の IT 関連サービスを利用する場合には、パッケージであればその開発元、内製化による独自開発の場合にはシステム開発子会社に委託することが一般的です。ただし、わが国と比べるとアプリケーションの設計情報がいわゆる「形式知」化されているために、長年にわたって蓄積されてきたアプリケーション開発経験がナレッジとして組織内に共有化されています。その結果、アプリケーション資産を効果的に保守ないしメンテナンスすることを通じて、コスト削減のみならず業務戦略の面でも様々な効果が得られているようです。また、スキルについても、いわゆる CMM (Capability Maturity Model) のような品質管理や生産性向上のためのツールや EA (Enterprise Architecture) のようなモデルと対応付けて標準化が図られています。

わが国金融機関にとっての示唆

金融業界における競争が激化するにつれて、金融サービス機関の多くが経営資源を本来業務へ集約する方向で事業構造の改革を推進する過程で一連の固定費を削減する施策を実行しながら競争優位を追及しようとしています。折しも BASEL II によるオペレーショナル・リスク管理の強化や米国における SOX (Sarbanes Oxley) 法に対応する内部統制の強化など一連の制度対応を背景として、IT 統制が見直されようとしています。金融機関としての業務が健全に遂行されているか否かは、裏を返すと健全な IT 環境のもとで適正なアプリケーション統制が実現されているかと言い換えることができるでしょう。IT 内部統制を整備するプロセスでアプリケーション保守の仕組みも改善していくことができるのではないのでしょうか。

近年、わが国でも総合金融サービス化を志向した新たな商品・サービスの開発に鎬を削る傾向が一段と明らかになってきたことによって、非常に限られた時間的制約のもとでアプリケーションの改造や追加を行わざるを得ない状況が増えています。そのためにも、膨大なアプリケーション資産をいかに効率的に保守していくか、実効性のある地道な取り組みの積み重ねが求められています。

米銀によるIT投資の推移(投資目的別、2003-2007)

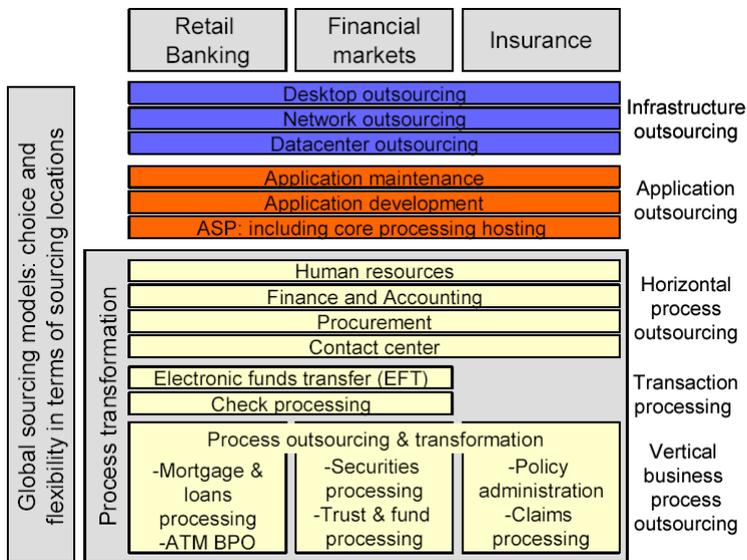


Source: TowerGroup

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c) 株式会社富士通総研, 2006

金融機関向けアウトソーシング・ビジネスの類型

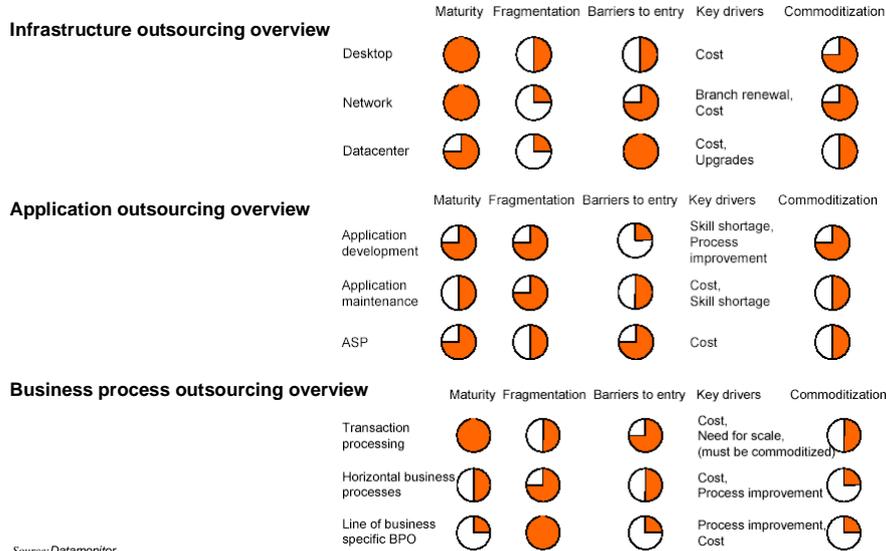


Source: Datamonitor

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c) 株式会社富士通総研, 2006

アウトソーシング・ビジネスの成熟度

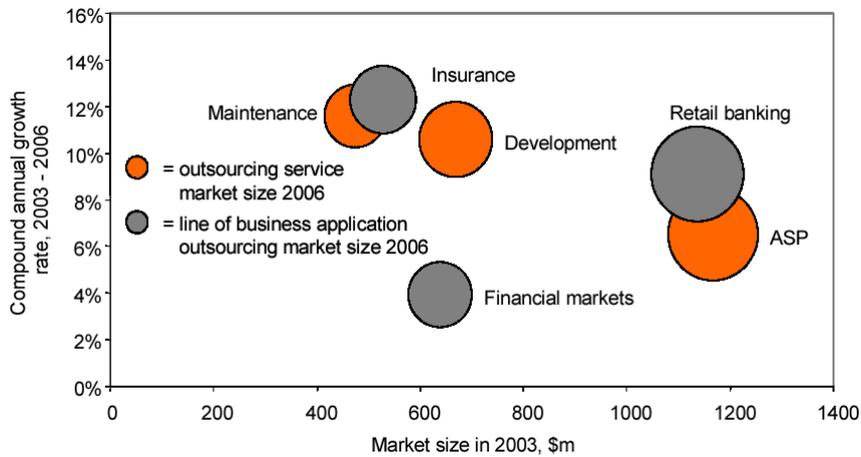


Source: Datamonitor

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006

アプリケーション・アウトソーシング規模の伸長 (北米金融機関、2003 - 2006)



Source: Datamonitor

CONFIDENTIAL

All Rights Reserved, Copyright(c)株式会社富士通総研, 2006